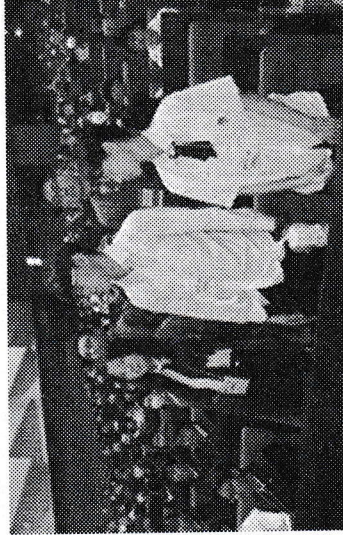


開会式では、来賓の文部科学省やJSTの方のあいさつでも取り上げられていました。

☆大阪大学・理化学研究所での交流

大阪大学蛋白質研究所・産業技術研究所を見学し、大学の先生からの講義や施設見学に加えて、若手研究者や留学生と交流する機会をいただきました。日本における科学技術分野での研究の様子、日本で学ぶ留学生の様子



などを実際に体験することができ、日本での研究を進める生徒も大変な経験ができました。理化学研究所神戸事業所では、特にiPS細胞を応用した加齢黄斑変性臨床研究について詳しく解説していただきました。



サイエンスデザインでのオララ発表



大阪大学蛋白質研究所で研修



理研神戸事業所での研修

今後の展望

生徒同士の交流だけでなく、教員同士もサイエンス分野において、課題研究の評価について相互の意見交流を行い、汎用性のあるループリックの作成に向けて次の一歩を踏み出しています。人文科学の分野においても課題研究についての交流を始める計画も進行しています。

今後も台湾との課題研究の深化や交流に努めたいと考えます。ホームステイによる文化的な交流も深め、個人レベルから学校レベルにおいて、より親密な日台関係を築いていきたいと考えます。

課題研究発表会・見学等を快く引き受けていただいた大学・研究所の皆さん、大阪サイエンス・スクール・ネットワーク関係校の皆さん、大変ありがとうございました。

た。中科実中の生徒たちも熱心にメモをとり、積極的に質問するなど大いに刺激を受けたようでした。

神戸の街の見学

また、1995年の阪神淡路大震災で大きな被害を受けた神戸の街が力強く復興している様子を目の当たりにし、同様に1999年9月21日に大きな地震に見舞われた台中市に在住する生徒たちにとっても、両国の協力関係について認識を深めるきっかけとなりました。

今回のプログラムの効果

本校から中科実中へはSSH事業の一環として訪問をしており、本プログラムと合わせて相互訪問を実現し、互いの滞在ではホームステイも取り入れ、より親密な関係を構築しています。

参加者アンケートでは、全員が再び日本を訪問したいと回答しており、さらに「日本の大学・研究所を進路希望先に加える」と回答した生徒も見られました。

副次的な効果ですが、引率教員が英語担当だったため、本校の英語教員と指導法についての意見交換が活発に行われ、本校の指導法にたいへん感銘を受けて帰られました。(本校はSG日指定校、大阪府の骨太の英語力育成事業指定校です。)

修了式にて